

Relay™ 6000
SendPro™ P2000
導入事例

User Profile



株式会社カクヤス

設立(創業)：1982年6月15日
(1921年11月1日)

本社：東京都北区豊島2-3-1

代表取締役社長：佐藤順一

従業員数：1,459名

(2018年3月末現在 役員除く)

資本金：1億円

事業内容：酒類・食品等の飲食店および一般家庭向け販売

「なんでも酒やカクヤス」、「KYリカー」、その他の店舗運営

概要：1921年(大正10年)、「カクヤス酒店」を創業。1982年(昭和57年)、「株式会社カクヤス本店」を設立。2002年には、商号を「株式会社カクヤス」に変更し、事業名を「なんでも酒やカクヤス」に統一。酒のディスカウントショップから宅配中心の業態に大転換を果たしました。現在、東京のほか神奈川、埼玉、大阪などにもエリアを拡大し、売上高は約1,000億円。酒類量販チェーン「なんでも酒やカクヤス」は、都内を中心に約140店舗を展開。何よりも顧客の視点に立ったサービスを提供することを心掛け、365日年中無休、東京23区全域でビール1本から無料で届ける宅配サービスを実現しました。業務用酒類卸売部門では、関東・関西に12か所の大型物流センターを構えているほか、銀座や六本木などの主要繁華街には、配達専門の拠点となるサテライト・ステーションを30か所近く配置し、クイックデリバリーなど、きめ細かい物流を実現しています。

株式会社カクヤス 様

月初に集中する業務用酒類卸売部門の請求書発送業務を封入封かん機「Relay 6000」と郵便料金計器「SendPro P2000」により大きく効率化。残業時間の削減、本来業務への集中によりより一層の顧客サービス充実を目指す

業界最大手酒販企業である株式会社カクヤスは、売上の約7割を占める業務用酒類卸売部門の毎月1万通を超える請求書発送業務の処理スピードに課題を抱えていました。そこでピツニーボウズの封入封かん機、郵便料金計器を導入し、業務効率化を実現。生み出された時間で、さらなる顧客サービスの充実を目指しています。

毎月初に行う業務用酒類卸売部門の請求書発送業務の処理スピードに課題

カクヤスは1921(大正10)年創業、まもなく100周年を迎える老舗企業です。2002年に商号を株式会社カクヤスに変更し、事業名を「なんでも酒やカクヤス」に統一。同時に事業形態をディスカウントショップから宅配中心へと大転換を図り、「年中無休、東京23区内ならどこでもビール1本から無料で配達」という徹底した顧客志向の宅配サービスにより急成長。今や売上高1,000億円を超える業界最大手企業です。売上の約7割を占める業務用酒類卸売部門では関東、関西に12か所の大型物流センター、銀座や六本木などの主要繁華街に30か所近いサテライト・ステーションを構え、きめ細かい物流によるクイックデリバリーを提供しています。

主に飲食店向けの業務用酒類卸売における受注～請求処理を一貫して担当するITサービス部事務センター 課長 土屋智氏は、今回の機器導入の背景を次のように語ります。「今では多くの外食チェーンやコンビニエンスストアでも配達サービスを行っていますが、我々は徹底したお客様志向での“配達のプロ”を自負しています。物流のきめ細かさ、クイックデリバリーはもちろん、配達スタッフの対応力でもご評価いただいています。ご注文いただいて、請求書がお手元に届くまでが商売ですので、請求書の発行スピードにも気を配ります。得意先様向けの請求書は五十日(ごとうび)ごとに処理しますが、そのほとんどが月末に集中し、その期間の処理件数は毎月、1万件以上になります。月末の締め作業は、社内の基幹システムで確定となるのが翌月3日目。請求書は、その翌日である月初4日中には全通を投函します。

従来から他社メーカー製の封入封かん機による自動化を行っていましたが、処理能力に課題を感じていました。従来機器は2日間では1万通の封入封かん処理が追いつかず、基幹システムの締めが完了する前の2日目から、前倒し、見切り発車で作業しなければならませんでした。締めが完了した後に差異が発覚すると、大量の封筒の中から該当の書類を探し、差し替えるという二度手間が発生していたのです。」

従来機の償却期間が完了したため、同社は処理スピードの向上を目指して買い替えを検討しました。「Webサイトでピツニーボウズ製品を知りました。問い合わせすると、すぐに実機のデモを見せていただけました。カタログで処理能力の数値は把握していましたが、実機を目の当たりにして、想像を超えたスピードに驚愕しました。これであれば課題が解消できる、と確信して導入を決断しました。」

封入封かん機の処理能力向上で従来の倍の処理スピードを体感

同社ではピツニーボウズ「Relay 6000」を導入。その効果について、土屋氏は次のように語ります。「社内を導入して、ほかの社員からも処理スピードに驚きの声があがりました。これまで丸1日かかっていた作業量がお昼休みには完了している具合で、従来機器の倍の処理スピード、という体感値です。これにより、基幹システムの締めが完了してからの作業でも、余裕を持って完了することができるようになりました。また、従来機器は紙詰まりした際などのオペレーションが複雑で、熟練したスタッフしか対応できませんでした。ピツニーボウズ製はその点もシンプルなので、誰でもオペレーションできます。加えて、封か

株式会社カクヤス 様

ん済の封筒を溜めておくスタッカーの容量も大きくなり、張り付いていないとならないという負荷も下がりました。」

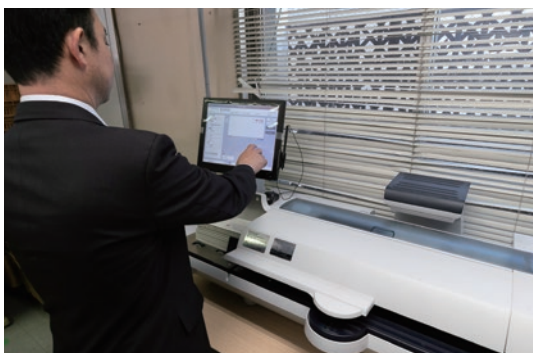
また、封入封かんする書面のボリュームについても従来機と差異があるとのこと。「従来機器は上限が8枚まででしたので、基幹システムも請求書8枚以内の得意先様と、9枚以上の得意先様とで分けて出力するようにカスタマイズしていました。そして、9枚以上の得意先様への請求書は手作業で封入封かんを行っていたのです。その点、ピツニーボウズ製品は25枚まで、角2封筒への自動封入封かんが可能ですので、手作業がほとんどなくなり、その点でも業務負荷が大きく下がりました。」

このように封入封かん作業に余裕が生まれたことで「互いの業務をフォローすることが可能になり、本来重要な締め処理に集中することができるようになりました」と土屋氏は語ります。

郵便料金計器のリプレイスにより直感的な操作性とカラー印刷機能のメリットを実感

加えて同社では、同タイミングで郵便料金計器もピツニーボウズ「SendPro P2000」にリプレイスしました。こちらの導入効果も、予想外に大きかった、と土屋氏は語ります。「従来機器に比べ、何より操作性が直感的でわかりやすいことに驚きました。例えば、厚みがあって郵便料金をスタンプできないものでラベル印刷が必要な場合、従来機器ではその都度、操作マニュアルを見ないとできない程、操作が複雑でした。ピツニーボウズの機器はオペレーション画面が大きく、直感的な操作でやりたいことが実現できます。」

また、カラー印刷機能も有効性が高いとのこと。「キャンペーンや価格改定など、得意先様にお知らせやご案内をお送りしたい際



に、見た目に請求書とは違う、と認識していただくことが重要です。しかし、オリジナルの封筒作成を外注するとコストも時間もかかってしまいます。その点、カラー出力機能を使えば、思ったその場でレイアウトして、出力できるのは非常に大きなメリットです。」

同社では、ピツニーボウズ機器の導入により、請求書発送の業務効率化を実現。その効果は残業時間の削減にも表れているとのこと。「これまで、毎月初の請求時期ではどうしても処理が終わらず残業も増えていたのですが、導入後は自動化と手作業の分配をコントロールすることにより、残業もほとんどなくなりました。」

機械化、自動化により本当に人が行うべき業務に集中より一層の顧客サービスの充実を目指す

今後の展開とピツニーボウズへの期待を、土屋氏は次のように語っていただきました。「今回導入した機器について、機能をしっかり把握してさらに使いこなすことはもちろんですが、現状の業務において、まだ手作業で行っている処理の自動化を、引き続き検討していきたいと考えています。従来、これは無理だろう、と諦めていたり、私たちがまだ気がついていない作業や処理で自動化できるものはないか、ピツニーボウズに相談しながら見つけていきたいですし、ぜひ他社の事例について教えてもらいたいと期待しています。機械化、自動化によって本当に人が行うべき業務に時間がさけることで、得意先様へのサービスのより一層の充実を図っていききたいと思います。」



Relay™ 6000
SendPro™ P2000
導入事例



株式会社カクヤス
ITサービス部 事務センター 課長
土屋 智 氏

